

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171500903		
法人名	社会福祉法人 福島幸愛会		
事業所名	グループホーム陽光園		
所在地	北海道松前郡福島町字三岳160-16		
自己評価作成日	令和4年2月3日	評価結果市町村受理日	令和4年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0171500903-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎日楽しく笑顔で過ごしていただけるよう、大切な家族と思いお世話をしています。季節の食材を取り入れたり、嗜好に合わせた食事やおやつを用意しています。ここが一番安心で、居心地が良い所だと思ってもらえる事を目指しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム陽光園」は国道228号線から車で5分程の住宅地域に立地している。漁業を中心とした福島町の周辺は展望公園、海峡横綱ビーチや福島町青函トンネル記念館、横綱千代の富士記念館など訪れたい場所も多くある町である。地域の祭り、高校の学校祭パレードなどは感染症の流行により自粛となっているが、施設長が近隣の高齢者宅の除排雪、草取りを長年続け喜ばれている。福島町フォトサークルの方々との交流もあり、四季折々の写真や地元行事の写真が居間に展示されており、利用者の楽しい空間となっている。利用者へはゆったりと寄り添い本人の願いや思い、持っている力を引き出す支援に努めている。介護計画作成は、個人記録シートの工夫により日々の状況を詳細に記録出来る仕組みとなっている。利用者と家族の意向を反映させ、個々に沿う必要な支援を盛り込んだ計画を作成している。かかりつけ医への通院受診や協力医による週1回の訪問診療、協力医院の看護師訪問により適切な医療や看護を受けられる。感染症緩和時期は玄関先で家族との面会を始め、散歩や外気浴、法人施設の桜を見に出かけている。室内では職員が知恵を出し合い、カルタ、福笑いや宝引きなど楽しめる支援に努めている。隣接の特別養護老人ホーム陽光園の夜間及び非常時災害などでの緊急時対応のバックアップ体制も整っている。町と地域、法人の支援協力のもとに利用者、家族の安心できる生活を支えている事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者がその人らしく暮らして行けるよう、事業所独自の理念を作り、職員は周知している。また、ホーム内の見やすい数ヶ所に掲示し、日々心に刻みながら介護している。	介護理念はパンフレットや玄関、事務所、食堂に掲示し職員は常に意識をしている。会議や日常のケアの中で再確認し、理念に基づいたサービスの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所の方とは、日々の挨拶は欠かさず、近隣の高齢者宅の草取りや除雪の手伝いをしている。	例年は町の行事や高校生と交流をしていたが、新型コロナウイルス感染症流行のため中止となっている。事業所地域は住宅も多く、住民とは日常的に挨拶を交わしている。開設時より近隣の高齢者宅の草とりや冬は事業所の除雪機で除排雪の援助をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の介護をしている方や、入所を検討している方の相談を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	町内会役員、役場職員、利用者家族、利用者をメンバーに開催している。行事や利用者の日常生活を中心に報告し、質疑応答をし意見交換を行い、施設外の方の考え方を知る機会を得ている。	運営推進会議は感染予防の観点により法人全体での定例評議会にて運営され、地域評議員、法人役員、法人職員の参加で年2回開催をしている。会計報告や入居者の現況、職員状況を伝え、質疑応答で得られた意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小さな町なので、役場職員ともほとんど顔見知りの関係で、話しやすく常に行き来をしており、運営等についても話し合いをする機会が多い。	開設当初から良好な関係を築き、運営推進会議の参加や管理者が窓口に出向くなど、相互に行き来きをして事業所の取り組みを積極的に伝えている。社会福祉協議会から研修の案内を受け社外研修を実施している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で資料を使い理解を深め、実際のケアを振り返ったり、その都度身体拘束に当たらないかを確認している。防犯上、夜間(19:00~6:00)は鍵をかけているが、日中は開けて出入り自由になっている。(センサーで出入りが分かるようにしている)	「身体拘束排除の理念及び方針について」の指針を定め、身体拘束等の適正化委員会を3か月に1回開催し、研修を年2回行っている。ケアの中でその都度確認し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は防犯上、夜間のみ施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、ミーティングで取り上げ勉強したり、実際のケアを振り返り虐待に当たらないか職員同士で意見交換し、身体的・精神的虐待を排除している。		

グループホーム陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で取り上げ、職員全員で理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結の際は、分かりやすい言葉を使い説明し、利用者・家族の疑問や不安を解消してから行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が気軽に意見や不満を言える関係作りをしており、言われた事は検討し改善するようにしている。玄関に「苦情・意見・要望承りボックス」を設置し、意見や苦情を受けた時は運営者に報告し、職員全員で改善に取り組んでいる。	利用者からは嗜好の要望が多く、行事の際には個々に沿った献立を取り入れている。感染症の流行で希望の訪問理美容を受けられない状況を理容師資格を持つ職員が対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ミーティング等で意見や提案を受ける機会を設け、出された意見や提案は出来るだけ運営に反映させている。	職員意見は計画作成担当者から施設長に伝える意見や、ケアの場面やミーティング時などで職員が発言しやすいよう雰囲気づくりに心がけている。意見や提案に基づいて全員で話し合い、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状態を把握し、必要に応じ相談や助言を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と思われる外部研修には勤務として参加させ、その研修内容を内部研修として利用している。本人から希望があった時も出来るだけ参加出来るようにしているが、今年度は新型コロナウィルスの影響により、研修へ参加する機会は無かった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道GH連絡協議会に入会しており、研修会や交流会に参加している。また、近隣の施設とは必要に応じ電話をかけたたり、相互に訪問しあっている。		

グループホーム陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では話しやすい雰囲気を作り、本人の生活歴・不安な事・大切にしている事等を出来るだけ話して頂きながら、理解を深めている。施設見学や必要に応じ体験入所をしてもらう事もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時に心配な事、望んでいる事等を話して頂き、当施設の普段の様子・どんな対応が出来るかをお話している。電話での相談をいつでも受ける事もお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や家族の希望や生活状況を聞き、当施設でのサービス内容を伝え、他のサービスが必要であれば提案し選択して頂くよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で職員が利用者に教えてもらったり、手伝ってもらう事も多く、お互い助け合いながら暮らしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪した時には、利用者の近況を報告し、ホームでの生活を見て頂いている。また、家族から聞いた入所前の話を介護に活かす事も多い。お互いに協力しあい、利用者がより良く過ごせるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知り合いの方が訪問された際には、気兼ねなく過ごせる雰囲気を作るようにしている。	現在は玄関先で利用者の姿を見るだけの面会となっているが、職員の細やかな配慮のもとに家族に安心、安堵の面会支援となっている。緩和時は隣接の特別養護老人ホーム陽光園へ桜を見に行ったり、秋はドライブなど、馴染みの場所に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話が弾んでいる時は見守り、話に参加していない人にも声をかけ和やかな時間を過ごせるよう気配りをしている。利用者同士の人間関係を把握し、トラブルを未然に防げるようにしている。		

グループホーム陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約や退去された利用者及び家族には、お会いすれば挨拶はもちろんだが、年賀状も送付している。それ以上の交流はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの利用者と同じく向き合い、思いや希望を引き出している。困難な時は表情や態度を観察し、出来るだけ本人の思いに近づけるようにしている。	希望や意向を表出する利用者が多く、会話や日々の暮らしの様子から思いの把握に努めている。寄り添い聞く姿勢を大切にして思いを引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人から聞いた生活歴・一日の過ごし方・趣味等をアセスメント表に記入し、職員全員が把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録し、職員全員が状況を把握している。変化があればその都度口頭や連絡ノートを用いて周知出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、モニタリングを行い、各職員と日頃の様子を話し合ったり、利用者・家族の希望を出来るだけ取り入れながら作成している。	介護計画作成時は利用者の意向や事前に家族とも話し合いを行い、策定している。長期1年短期6か月ではあるが、都度見直しを行っている。日々の個人記録は詳細なモニタリングとして活かされており、アセスメントへの根拠や計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録にその日の行動や変化、ケア後の気づきを記録し、大きな変化は連絡ノートにも記載し、それを職員全員が確認・共有しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の要望に応じ、通院・外出・家族送迎等、必要に応じ柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内に町民有志のサークルの写真を掲示しているが、他は特に協働はしていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に引き続き診てもらっている。入院や他医院への受診については、かかりつけ医から紹介してもらっている。異変があった時はすぐに連絡し指示を受けている。	利用開始後も利用者、家族の希望するかかりつけ医への通院支援を行っている。週1回、協力医の往診や状況に応じ協力医の看護師が訪問し、適切な医療を受けられるよう体制を整えている。	

グループホーム陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護職員がいないので、受診する程ではないが変化が見られ気になる時は、かかりつけ医院の看護師に相談し指示や助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が付き添い、必要な情報を提供している。入院中は出来る限りお見舞いに行き、様子を見たり病院スタッフから話を聞き現状の把握に努めている。家族が遠方の場合は、洗濯の支援をする事もある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にホームでの暮らしが困難と見受けられる場合は、系列の特養への移行もある事を説明し同意を得ている。重度化・終末期についてはその時点で家族を交え話し合っているが、看護職員もおらず、町内に入院施設もなく限界を感じる事も多い。	重度化や終末期については、利用開始時に看取りの医療連携体制が難しい状況を説明し、同意を得ている。状況の変化に応じて再度家族と話し合い、系列の特別養護老人ホームへの移行や医療行為が必要な場合は医療機関と連携し入院支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の応急処置法のマニュアルがあり、職員に周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員会議で避難方法を確認し、昼間と夜間に避難訓練を行っている。	令和2年度は年2回の避難訓練を実施している。今年度は感染症対策により防災及び非常災害時対応マニュアルを使用し、図上訓練として位置付けて研修を行った。自然災害発生時における業務継続計画(BCP)は法人で策定中である。	感染症収束時期を見計らい、令和2年度も実施されている消防署の協力を得た避難訓練の実施に期待したい。また、自然災害発生時に向けた継続的なシミュレーション訓練の実施にも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの生き立ち、価値観、考え方を考慮し、自尊心やプライバシーを損ねないよう言葉を選び対応している。	利用者一人ひとりの人格の尊重とプライバシーを損ねないように言葉づかいにも十分配慮をしている。排泄の失敗の際はさりげなく声をかける対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や食べ物の希望、観たいテレビ、何をしたいのか、どこへ行きたいのか等、あらゆる場面で選択の機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはある程度決まっているが、状況に合わせてそれぞれの意思を尊重し自分のペースで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは基本的に本人の意思で行ってもらうが、気候や体調に合わせて助言はしている。散髪は2ヶ月に1回、訪問サービスを利用している。		

グループホーム陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの嗜好を把握しながら、好みの物や季節の食材をメニューに取り入れている。誕生日にもメニューを選んで頂いている。	献立から食材の買い物、調理を事業所で行っている。利用者も下ごしらえを共に行い、職員も同じ食卓を囲んで楽しく食事が出来る事を大切にしている。利用者の希望の食材や好みのメニューを日常の献立や行事食に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し、摂取量が少ない時は好みの物や代用品を用意し食べて頂いている。水分量は1日の目安を決め記録し、色々な飲み物を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの能力に合わせ、毎食後、声掛け・見守り・介助で行っている。義歯の洗浄・衛生管理も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録簿を基に個々の排泄パターンを把握し、声を掛けたりトイレへ誘導し失禁を減らすようにしている。排泄時には羞恥心に配慮し支援している。	排泄記録から一人ひとりの排泄パターンを把握し、仕草やタイミングでトイレで排泄が出来るように支援をしている。失禁の際はさりげなく声をかけ不安や羞恥心の軽減に努めている。夜間帯はポータブルトイレの使用や衛生用品を使い分け、個々に沿った配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便出来るよう、繊維質の物・野菜・果物・乳製品をメニューに取り入れている。こまめに水分補給をして頂き、軽い運動を生活の中に組み込んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂は月～土、1日3人ずつ入浴してもらっている。入浴前にバイタルチェックを行い、異常がない事を確認している。また、入浴を拒否する方には時間を置いたり、対応する職員を替えたりとその都度柔軟に対応している。	入浴は週2回を目途に、身体状況に応じて2人介助をするなど個々に沿った対応をしている。職員と昔話をしたり、歌を口ずさんだりと寛げる入浴となっている。嫌がる場合は無理強いをせず、時間や職員を変えて安心してもらえる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は昼寝する時間を作り、その他にも居眠りをしたり、疲れた様子の時も休んで頂いている。夜は居室を好みの明るさにし、大きな音を立てないように環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに処方箋を入れ確認している。変更があった時は連絡ノートを使い把握している。飲み忘れないよう、お薬カレンダーを使用し、服用時には飲み込みを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の後片付け、縫物、掃除等、得意な事で力を発揮出来るよう支援している。おやつの際の飲み物は好みの物を選んで頂いている。		

グループホーム陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は庭や玄関前のベンチで過ごす方もいる。散歩・買い物・ドライブは一人ひとりの希望に応じ支援しているが、頻度は少ない。コロナウイルスにより尚更頻度は少なくなっている。	以前は買い物など利用者の希望の外出をしていた。感染症予防のため自粛している状況であるが、制限緩和時は事業所周辺の散歩や玄関前での外気浴、桜を見に行ったり、紅葉を見に行くドライブやベンチでおやつを食べるなどの支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、家族とソ段し小遣い銭を所持されている方もいるが、使う機会はほぼない。それぞれの能力に合わせ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で掛けられない方には、職員が代行し家族と話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るい居間にテーブル・ソファ・観葉植物を置き、写真や絵を貼り、落ち着いた空間にしている。また、季節や行事にちなんだ飾りつけをしている。	居間は利用者、職員手作りの作品の掲示や観葉植物が置かれている。腰壁は地元の杉板を使い落ち着いた雰囲気となっている。福島町フォトサークルの写真は、地域の馴染みの場所や行事の写真など利用者の癒やしの空間となっている。寛げる広い居間ではカルタ、福笑い、ゲームを楽しんだり、雑壇など季節の飾り付けを施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置き、一休み出来るようにしている。また、居間と食堂が離れていて、それぞれが好きな場所で過ごせるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具・写真・思い出の品等を持ち込んで頂き、好みの居室にしている。観葉植物を置いている方もいる。	居室入口には表札や紙テープの折り紙を目印に付けている。洗面台、クローゼット、タンス、介護用ベッドが備え付けられている。使い慣れた座椅子、仏壇、写真など持ち込み心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる所に手すりを設置し、食事用椅子は高さの調節が出来る物を用意している。居室には表札、トイレや浴室には大きな字で書いた名札を掲示している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム陽光園

作成日：令和 4年 3月 16日

市町村受理日：令和 4年 3月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	今年度は感染症対策により避難訓練を実施する事が出来なかった。	日中・夜間想定の実施し、火災以外の災害での避難訓練も実施出来るようにする。	消防署にも協力を依頼し、避難訓練を行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。